

氏名：瀬川晃

役職：准教授、教務委員会、学生委員会、入試実施委員会、学年担当（M2）  
担当授業：メディア表現基礎3、制作基礎、メディアデザイン演習

## 活動の概要

研究活動では、ソフトピア地区を中心とした「サイン計画」のリサーチと改修をすすめ、IAMAS ウェブへ研究レポートとしてまとめた。M2 学年担当として IAMAS2022 実行委員会の監修、卒業生と連携し openhouse\_2021 のデザイン監修、おおがきビエンナーレ 2021 のデザインディレクションを行った。学外では地域の文化活動「草の根交流文化サロン」の活動支援、春日森の文化博物館での企画展示や制作協力を行った。

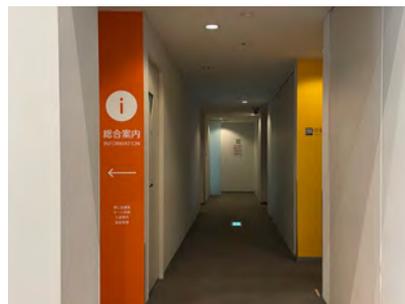
## 学内外で携わった共同活動

### サイン・スタディー ウェブレポート（前期・後期）

ソフトピアジャパンエリアを対象にした公共施設におけるサインを見直し、ケーススタディーを実践し、伊澤宥依（産業文化研究センター 技術支援専門職）と共同でレポートを執筆した。

2021 年 08 月 12 日 産学官連携・地域連携レポート

2022 年 03 月 17 日 産学官連携・地域連携レポート



### OPENHOUSE 2021 デザイン（ビジュアル・アイデンティティ）

ウェブ監修に携わり、動的な可変性を意識しロゴタイプと動的な背景（カラースキーム）はソースコードだけで実装した。

#### メンバー

- デザイン+構築：加藤昭洋（卒業生）
- コーディング実装：永松歩（卒業生）
- ディレクション：小林茂

制作：2021 年 5～7 月



---

## IAMAS2022 修了研究発表会 実行委員

学生を中心に構成される実行委員会（運営、デザイン、イベント、広報、映像、設営）各班の進捗確認と事務局との連携を行った。

---

## 情報科学芸術大学院大学紀要 第13巻・2021年

実世界と仮想世界をテーマに、スキャナー機器を即物的に捉えレイアウトした。

発行：2022年3月



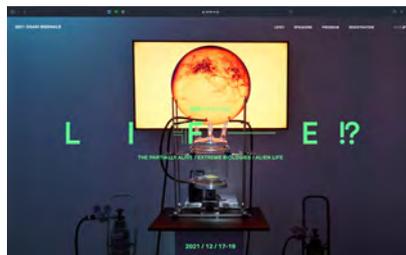
---

## おおがきビエンナーレ 2021 デザインディレクション

デザインコンセプトの解釈とウェブを中心にイベントの告知から参加申込のディレクションを担当した。

デザイン：中村直永

進行：2021年9～12月

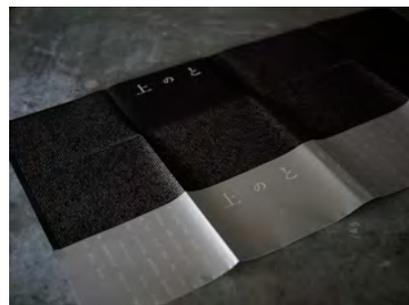


### 制作協力『ことばの途上』装幀

書家・詩人の岩瀬崇が、霊峰白山麓（石徹白）にある築90年の古民家を改修しながら、5年間に紡がれた詩、エッセイ、評論をまとめた書籍の装幀を担当した。4万字あまりの文章全体を俯瞰できるように、カバーの裏面にレイアウトし、表の隙間から見える。薄紙かつシルバーなのでシワにならないよう繊細な扱いにはなるが実験的に試みを行った。

制作：2021年1～5月

判型：A5 236ページ 2021年7月1日 発行：あわ居



### 制作協力：2021 美濃国池田山麓物語 願成寺古墳群美術展

願成寺古墳群美術展～コロナ禍を超えて～

主催 2021 美濃国池田山麓物語実行委員会

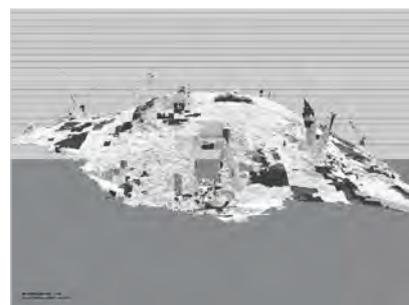
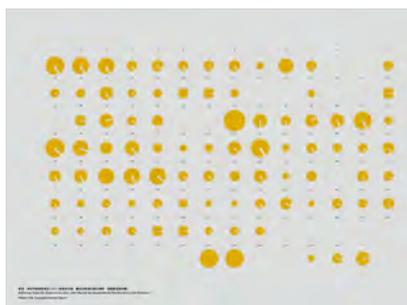
古墳どうでもトーク配信（4～9月：合計6回）

1号墳前トーク会（8月1日）願成寺古墳群1号墳前+オンラインにてトークイベント配信

ビジュアルブック制作（A4版16ページ）

会期：2021年4～12月

会場：土川商店「場所かさじゅう」揖斐郡池田町宮地930



---

## 展示：探検ランドリニューアル記念展「森へ into the forest」

主催 春日森の文化博物館（岐阜県揖斐郡揖斐川町春日美東 1902 番地 183）

岐阜県揖斐川町にある「春日森の文化博物館」は開館から 25 年が経ち展示物の老朽化に直面している。自然豊かな環境と展示空間の条件を活かした立体、音、映像で構成された新しい鑑賞体験と、ワークショップやスタンプラリーなど幅広い年代でも体験できる機会を提供した。

### メンバー

教員：瀬川晃・金山智子・小林孝浩・吉田茂樹

学生：路雨嘉・工藤麻里・小林玲衣奈・林暢彦

制作：2021 年 6～10 月 会期：2021 年 10 月 10 日～31 日



---

## 制作協力：2022 美濃国池田山麓物語 願成寺古墳群美術展

主催 2022 美濃国池田山麓物語実行委員会

2021 のロゴを踏襲・アレンジし、リーフレット・ウェブで作品詳細と展示場所を閲覧できるようにした。

制作：2022 年 1～3 月 会期：2022 年 4 月 23 日（土）～5 月 29 日（日）

<https://scrapbox.io/ganjoji/>

